

「津波被害にあった標本を救おう」展の 開催によせて

「津波被害にあった標本を救おう」展を開催するにあたり、あらためて東日本大震災で不幸にしてお亡くなりになった人々に哀悼の念を表わし、ご遺族や大きな被害にあわれた方々にお見舞い申し上げますと同時に、1日も早い復興を祈念いたします。

被害にあった標本を救おうというこの活動は、現地にいなくても復興に協力できる行動が、目に見えるかたちで進行している典型例です。津波に襲われた博物館で塩水を被った標本は、そのままにしておくと標本としての価値を失います。早急に塩抜きをし、貴重な標本として再生させることが必要ですが、これは標本を扱った経験豊富な仲間が救済に協力できる作業です。全国の博物館の仲間たちが協力に立ち上がり、ひとはくでも早速に仲間に加わりました。

標本がいかに被害を受けたか、それにどのように対応し、どこまで再生できたか、ひとはくで実施されている活動の経過を追いながら、今回の自然災害の恐ろしさを知り、それに対してわたしたちがやるべきことは何かを、あらためて整理するきっかけになればと期待します。

兵庫県立人と自然の博物館
館長 岩槻 邦男